

項目	環境保全を重視した施策の展開	NO	1-2
事業名	森林資源再生事業		
事業費	15,678 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

主伐後に再造林を行う仕組みを構築し、造林未済地の解消を目指す。

2 事業概要

- ・事業内容 : 森林組合等が行う植栽に対し、経費の一部を支援する。
- ・事業主体 : 森林組合等
- ・事業量 : 177ha (計画)
- ・事業費 : 15,678千円
- ・補助率 : 再造林の1ha当たり標準経費の22%相当額(税12%、一財10%)
(併せて国庫補助事業補助及び民間の補助を活用した場合、
実質補助率は約100%)

○ 平成30年度実績見込み

- ・再造林面積 : 70ha
- ・実施事業体数 : 11事業体 (村山1 最上4 置賜2 庄内4)



伐採跡地への再造林の状況

2 課題と対応

- ・平成30年度の再造林面積は、計画面積177haに対し約4割の70haに留まる見込みである。
- ・また、小面積の補助として設けた、苗木代金の補助については8haの計画量に対し、0.1haの利用に留まった。
- ・再造林率の向上に向けて、今後も、業界全体で取り組む予定である。

項目	環境保全を重視した施策の展開	NO	1-3
事業名	森林資源循環利用促進事業		
事業費	32,389 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

間伐で発生する低質材を、ラミナ・合板等用材やペレット等の木質バイオマス燃料用材として利用するための搬出への支援。

2 事業概要

(1) ラミナ等利用促進事業

間伐により発生した木材のうち低質材について、ラミナ（集成材）や合板、製紙・ボード用チップ等の用材として工場に出荷した場合に一定額を助成する。
（ラミナ等用材：400円/m³）

(2) バイオマス燃料利用促進事業

間伐等により発生した木材のうち低質材について、木質バイオマス燃料のチップやペレットの原料として工場に出荷した場合に一定額を助成する。
（間伐材の熱利用：2,000円/m³、間伐材の発電用：500円/m³、
森林経営計画認定森林の林地残材（熱利用・発電用）：500円/m³）

・平成30年度実績見込み

ラミナ等利用促進事業	27,430 m ³	（計画： 43,000 m ³ ）
バイオマス燃料利用促進事業	20,870 m ³	（計画： 26,000 m ³ ）
合計	48,300 m ³	（計画： 69,000 m ³ ）

3 成果と課題

【 成果 】

- ・ラミナ等利用促進事業では、県内のラミナ材加工工場や県外の合板工場等への搬出に対して支援を行った。しかし、県外の合板工場において受け入れ制限があったため、計画数量を下まわった。
- ・バイオマス燃料利用促進事業では、燃料用のペレットやチップ加工工場、バイオマス発電施設への搬出に対して支援を行った。

【 課題・対応 】

バイオマス発電施設の増加や大型集成材工場の本格稼働など出荷先は増加してきているが、搬出利用の採算が合わず有効活用されていない間伐材や林地残材があり、これらが有効活用されるよう本事業の活用を推進する。

やまがた緑環境税を活用した取組み

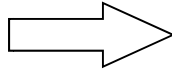
【平成30年度森林資源循環利用促進事業の取組み事例】

「森林資源循環利用促進事業」

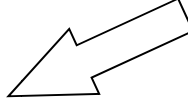
間伐に伴い発生する低質材を、合板用材等やペレット等のバイオマス燃料として利用するための搬出等に対し支援を行う。



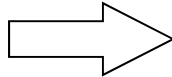
伐木造材
(本事業対象外)



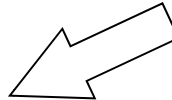
林内からの
集材・集積



トラック運搬



工場搬入



用途別に加工工場に運搬



ラミナ材
(集成材)
加工工場



合板工場



バイオマス燃料
加工工場



バイオマス発電施設

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-4
----	-----------------------	----	-----

事業名	広葉樹林健全化促進事業		
事業費	1,400 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

- (1) ナラ枯れ被害の拡大防止
- (2) 広葉樹林の更新（若返り）
- (3) 森林資源の有効活用

2 事業概要

ナラ林を主体とする広葉樹林の小規模皆伐（おおむね5ha以下）を実施する森林所有者、森林組合、素材生産業者等に対し、伐採搬出経費の一部を助成する。

3 平成30年度実績見込み

広葉樹の伐採搬出支援 1,400m³ （計画：1,500m³）

4 成果と課題

(1) 成果

ナラ枯れ被害の原因となる害虫の駆除と森林の若返りを促進し、併せて伐採木の利用による森林資源の有効活用を推進した。ナラ枯れ被害の減少により、事業を実施する地域が減少したため、当初計画よりも事業量が減少した。

(2) 課題・対応

ナラ枯れ被害は減少しているものの、地域によっては増加しているところがあり、引き続きナラ枯れ被害の拡大を防ぐ取組を推進する。



伐採作業と集材・搬出の状況

森林資源の有効活用